第５学年　　道徳科学習指導案

１　主題名　　分かり合うために　　Ｂ―１１［相互理解、寛容］

　　教材名　　ブランコ乗りとピエロ　　出典：きみがいちばんひかるとき（光村図書）

２　主題について

（１）ねらい

　小学校５年生の時期は、自分のものの見方や考え方についての認識が深まる。そのため、考え方が固執して他者との違いに違和感をもったり、近い価値観をもつ者同士を仲間と考えづらい者を遠ざけようとしたりする姿が見られる頃である。自我の意識が芽生える時期なので、相手の意見を素直に聞くことのよさについて考えたり、なぜ相手はそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考えたりする態度を育てたい。

（２）児童の実態

　４年間同じ学級で過ごしてきた児童。気心が知れており、気軽に話すことができる人間関係ができている。レクリエーションで何をして遊ぶかを決める学級活動の場面では、「ドッジボールをやりたい」という児童の意見に対して、「私は、体を動かす遊びは嫌だな」と発言をする児童がいた。その後、意見を出し合うが、自分のやりたいことを述べるだけでなかなか学級としての意見がまとまらない。多くの場合は多数決で決めることとなる。「ドッジボールをやりたい」と「体を動かす遊びは嫌」という意見は相反しているが、以前学習した教材『ドッジボール対決』の一説「私は、ドッジボールはできないけど応援するね」というような相反する意見を聞き入れた発言ができると、よりよい学級の雰囲気になると考えた。そこで、本題材において、相手の意見を聞き入れ、相手の立場に立って考え議論する心情を高めたいと考えた。

（３）指導について

　本教材は、互いに怒りの感情をもち、わかり合えなかったサーカス団のリーダー「ピエロ」とブランコ乗りの「サム」が話をして、サーカス団の雰囲気が変わる場面が描かれている。ピエロとサムの心情の変化について話し合う時間を確保するため、教材は前もって読む。本時は、ホワイトボードに挿絵や要約した言葉を掲示し、内容を確認するところから始める。２人の人物像を考える場面では、ピエロに対して肯定的な意見が多いと予想する。「ピエロは本当によい人なのか」を児童に問い、ピエロの弱さを引き出したい。２人の話し合った内容を考える場面では、「サムを認める」や「ピエロの話を受け入れる」といった意見は出やすいと考える。そこで、「認めたり受け入れたりすることは大切だけど自分のやりたいことができなくなるかもしれないけどよいか？」と児童を揺さぶる。この揺さぶりにより、相手としっかりと話し合い、相手のことを深く理解することが大切であることに気付かせたい。このような学習活動を通して、互いに深く理解して認めたり、受け入れたりしながら生活しようとする心情を高めたい。

３　本時の学習

（１）ねらい

　　互いに深く理解して認めたり、受け入れたりすることの大切さを知る。

（２）準　備

【教師】ホワイトボード、挿絵、ワークシート

【児童】タブレット

（３）展開

|  |  |
| --- | --- |
| 学　　習　　活　　動 | ◆支援　◎評価 |
| １　サムとピエロの人物像を考える。【全】  　［サム］　　　　　　　　［ピエロ］  　・観客を楽しませる技　　・古くからのスター  　・夢中で演技　　　　　　・団員からの信頼  　・自分勝手　　　　　　　・サムにいかり  　・人の話を聞かない　　　・自分も目立ちたい  サムとピエロは何で分かり合えなかったのだろう  ２　演技を終えてぐったりしているサムと舞台に向かうピエロがすれちがったとき、ピエロは何を考えたかについて意見を出し合う。【全】  　・サムが疲れている⇒全力で演技した  　・サムの技はすごい⇒観客を引きつけた  　・団員の励みになるかも  　・うまく利用できるかも  　・自分とダブルでスターになるかも  　・注意を無視しやがって  　・自分勝手にやりやがって  　・自分よりすごい⇒くやしい、ジェラシー  　・みんなのためにならない  団員たちが引きあげたひかえ室で、サムとピエロはどんな話をしていたのだろう  ３　サムとピエロの話の内容を考える。【個→全】  　［サム］  　・ピエロに認めてもらってうれしい  　・ピエロの話を受け入れ、自分がスターという気持ち  　　をすてよう  　［お互いに］  　・自分がスターではなく、みんなでよいサーカスを  作っていこう  　・自分のやりたいことやゆずれないことについてしっ  かりと意見交換した  ［ピエロ］  　・サムのがんばりを認める  　・サムのやりたいことを受け入れる  考えのちがう人同士が関わり合って生活するためにはどうしたらよいのだろう  ４　今日の学習の振り返りをする。【個】  　・相手の考えをしっかりと聞く  　・自分の考えを正直に伝える  　・互いの考えを認め、実現できるように話し合う | ◆人物像の強みと弱さがわかりやすいように、サムとピエロで分けて板書する。  ◆ピエロはよい人という意見に偏らないように、「ピエロは本当によい人なのか」と児童を揺さぶる声掛けをし、ピエロの弱さも引き出す。  ◆教材の内容を確認できるように、挿絵や要約した説明を掲示したホワイトボードを設置する。  ◆２人の問題点がわかりやすいように、「自分」「話を聞かない」等の言葉に線を引く。  ◆サーカス団の状況の悪さを感じ取れる  ように、活動が上手くいっているかどうかを「心の数直線」(タブレット)で表すように指示をする。  ◆話し合い後に、サーカス団の状況がよくなったことが感じ取れるように、団員が笑顔で食事をする挿絵をホワイトボードに掲示する。  ◆話し合い後に、サーカス団の活動が上手くいっているかどうかを「心の数直線」(タブレット)で表すように指示する。  ◆「認め合う」「受け入れる」という意見にとどまらず、深く考えることができるように、「自分のやりたいことができなくなるかもしれないけどよい？」と児童を揺さぶる声かけをする。  ◎相手のことをしっかりと理解することの大切さに気付き、相手の立場にたって考える意欲を高めることができたか。  　　　　　　　＜発言・ワークシート＞ |